

佐藤訪米之70年相思集

特集

古語之類篇造

1969
11.4 程行

IE
762
4784

安儀条約を存続する
り、廢キするアソリ
ウ日本の道路と国民
の運輸にかかるの事

一昨年、一九六七、佐藤首相が訪米した時、ジョンソン大統領と佐藤首相はアジアの安全を防衛に關して「共同防衛」となければならぬことを約束しました。

の運命にかかる運命
よし運び、すきに

に於ては米豊は何より公武には諦めており、公武の

今耳慶、国民党の呉新田は、保険監査長は、沖繩へ返還の日本の所領問題について「自己承認」の原則を

卷之二

「水煙パイロール」を吸うれない」と述べた。アメリカには電子タバコなどによって「吸い込む喫煙」を問

すものとして、厚生省は防災隊を組織することと
定めたのである。

少四年四月十一日午後四時十七日に佐藤内相の説教があり定められて
いたが、東京では「沖縄過邊文書」のため少しあくまで猶豫がある。やがて安
心したので重慶で都知事、日本事に参考を沿らむと伝えられて
いたが、国民党は必ずしもよく用いてほさん。そこでの近頃漸く前
に、政府・国民党・各界の連携が強化を競ひはじめる。十四日に
は唐天祐が安保の長期延長を主張大足してあり、この結果に李覺仲別
やんとのことであります。同日呂田防・吉長官は「第4次防工力整備計

しの作戦を指示して、さる。十六日には、日暮駆逐隊の船で駆逐艦は
櫻島は、「日暮駆逐のための練習、道筋の改正に、首をかぶらん」
と重大な事をして、います。安保、沖縄をめぐる一連の事件は、切々つ
がまた、真に「二十年身寄しに遇う上」ざるために、久留里、久
留里、問題を解決しました。

佐藤訪米に挙党体制秘密交渉定
「日共、由保、川井、延長」を決定
十四日、自民の日本中学生連
「農業改良」の方針を正式に発表
延長はどんる理がの縦横で立つ
けやくとも、内容そのもの同様
て、これおくれとするらうのです。

「これは、二十年を前に、開拓がいりつゝ、「在原の自動装置・強化」の方を固め、佐々木半蔵体制で年を経て行なつたものである。

日露休戦協定（日露休戦条約）は、明治三十一年（1898年）十二月二日、日本と露が締結した休戦のための条約である。この条約は、日露戦争の結果、露が敗北したことを前提としており、露の主張する「日露休戦」が実現された。条約の内容には、露の主張する「日露休戦」が実現された。条約の内容には、露の主張する「日露休戦」が実現された。

ヨリヤして七年六月二日に卒年五十四

「日本が沖縄からどうぞたつてりやか、どうう賣回に同答
えらひる。」といひ、日本の外務省は「沖縄之地の、夜
については米軍は何ら公式には声明しない」とい
ふ水煙バトロールは考ふられぬ」と述べた。と云す。
アメリカには露骨な法などによつて「もろの島主」を頭
らかに下さはいたの間約がありまち、「米國政府です、
めでいる沖縄問題では、ハマトト問題になつた。核に
ついては本日側から「米国間約」「けんぶんが同の用
にさ「核の取扱いは既示し難い」として、重要事が出され
日本の方にそれをとげ入れたと云われます。

沖縄各地には現在、マースB・核爆弾・戦闘・核爆雷
サブロック防護庫の建設、ボラリス潜水艇・整備施設等
は複数の増強が公然と進められてゐます。ところがア
メリカ政府は、「これらの「核」について、これまで一
度も「本筋」した公言しないとあつません。日本政府に
去わせば東ナツの「核」について米軍者が公言しない
かく、「核」は考ふられない」といひことになります。

政府のいつ「本筋」し「返還」が実は「核」がくじ返還だ
といひことなのです。72年には沖縄は戻つてくる」と
いう政府の考えは、沖縄返還と同時に日本の本土に核
をもちこむつとするもののです。これがまさに「本土の中
ナツ化」即ち全土核化地化に伐りつけられることで、い
るのです。

そればかりではありません。「撤退」を意味する二
とは、どちらもなおよぎ、東ナツにある毒ガス、細菌兵器
の威脅を意味します。

日本が沖縄からどうぞたつてりやか、どうう賣回に同答
えらひる。」といひ、日本の外務省は「沖縄之地の、夜
については米軍は何ら公式には声明しない」とい
ふ水煙バトロールは考ふられぬ」と述べた。と云す。
アメリカには露骨な法などによつて「もろの島主」を頭
らかに下さはいたの間約がありまち、「米国政府です、
めでいる沖縄問題では、ハマトト問題になつた。核に
ついては本日側から「米国間約」「けんぶんが同の用
にさ「核の取扱いは既示し難い」として、重要事が出され
日本の方にそれをとげ入れたと云われます。

沖縄各地には現在、マースB・核爆弾・戦闘・核爆雷
サブロック防護庫の建設、ボラリス潜水艇・整備施設等
は複数の増強が公然と進められてゐます。ところがア
メリカ政府は、「これらの「核」について、これまで一
度も「本筋」した公言しないとあつません。日本政府に
去わせば東ナツの「核」について米軍者が公言しない
かく、「核」は考ふられない」といひことになります。

政府のいつ「本筋」し「返還」が実は「核」がくじ返還だ
といひことなのです。72年には沖縄は戻つてくる」と
いう政府の考えは、沖縄返還と同時に日本の本土に核
をもちこむつとするもののです。これがまさに「本土の中
ナツ化」即ち全土核化地化に伐りつけられることで、い
るのです。

そればかりではありません。「撤退」を意味する二
とは、どちらもなおよぎ、東ナツにある毒ガス、細菌兵器
の威脅を意味します。

日本が沖縄からどうぞたつてりやか、どうう賣回に同答
えらひる。」といひ、日本の外務省は「沖縄之地の、夜
については米軍は何ら公式には声明しない」とい
ふ水煙バトロールは考ふられぬ」と述べた。と云す。
アメリカには露骨な法などによつて「もろの島主」を頭
らかに下さはいたの間約がありまち、「米国政府です、
めでいる沖縄問題では、ハマトト問題になつた。核に
ついては本日側から「米国間約」「けんぶんが同の用
にさ「核の取扱いは既示し難い」として、重要事が出され
日本の方にそれをとげ入れたと云われます。

沖縄各地には現在、マースB・核爆弾・戦闘・核爆雷
サブロック防護庫の建設、ボラリス潜水艇・整備施設等
は複数の増強が公然と進められてゐます。ところがア
メリカ政府は、「これらの「核」について、これまで一
度も「本筋」した公言しないとあつません。日本政府に
去わせば東ナツの「核」について米軍者が公言しない
かく、「核」は考ふられない」といひことになります。

政府のいつ「本筋」し「返還」が実は「核」がくじ返還だ
といひことなのです。72年には沖縄は戻つてくる」と
いう政府の考えは、沖縄返還と同時に日本の本土に核
をもちこむつとするもののです。これがまさに「本土の中
ナツ化」即ち全土核化地化に伐りつけられることで、い
るのです。

そればかりではありません。「撤退」を意味する二
とは、どちらもなおよぎ、東ナツにある毒ガス、細菌兵器
の威脅を意味します。

日本が沖縄からどうぞたつてりやか、どうう賣回に同答
えらひる。」といひ、日本の外務省は「沖縄之地の、夜
については米軍は何ら公式には声明しない」とい
ふ水煙バトロールは考ふられぬ」と述べた。と云す。
アメリカには露骨な法などによつて「もろの島主」を頭
らかに下さはいたの間約がありまち、「米国政府です、
めでいる沖縄問題では、ハマトト問題になつた。核に
ついては本日側から「米国間約」「けんぶんが同の用
にさ「核の取扱いは既示し難い」として、重要事が出され
日本の方にそれをとげ入れたと云われます。

沖縄各地には現在、マースB・核爆弾・戦闘・核爆雷
サブロック防護庫の建設、ボラリス潜水艇・整備施設等
は複数の増強が公然と進められてゐます。ところがア
メリカ政府は、「これらの「核」について、これまで一
度も「本筋」した公言しないとあつません。日本政府に
去わせば東ナツの「核」について米軍者が公言しない
かく、「核」は考ふられない」といひことになります。

政府のいつ「本筋」し「返還」が実は「核」がくじ返還だ
といひことなのです。72年には沖縄は戻つてくる」と
いう政府の考えは、沖縄返還と同時に日本の本土に核
をもちこむつとするもののです。これがまさに「本土の中
ナツ化」即ち全土核化地化に伐りつけられることで、い
るのです。

そればかりではありません。「撤退」を意味する二
とは、どちらもなおよぎ、東ナツにある毒ガス、細菌兵器
の威脅を意味します。

皇清通志

卷之三

